

東白塚草原植生保護柵の効果(中間報告)

平成28年（2016年）10月

特定非営利活動法人富士山の森を守るホシガラスの会

東白塚草原植生保護柵の効果(中間報告)

特定非営利活動法人富士山の森を守るホシガラスの会 2016年10月4日

① 植生保護柵設置までの経緯

水ヶ塚遊歩道東白塚周遊コースの見どころとして親しまれた草原



2004年の草原



サンショウバラ



イワシモツケ

草原は旧東白塚周遊コースの東白塚北側標高1,420mに位置し、富士山のこの標高としては珍しい湿地性の草原である。湿潤な環境に生育する植物が見られ、サンショウバラ、コウリンカなどの希少植物、富士山では珍しいイワシモツケなどが生育し、夏には草原の草花に集まるたくさんの蝶が見られた。草原に至るコースの自然環境は年代の異なる溶岩流上に、植物相の異なる森が発達するなど変化に富み、静岡県発行「自然観察コース100選 ※」「ふるさとの自然 東部編 ※」、裾野市富士山資料館発行「富士山麓の植物 水ヶ塚周辺編」などで紹介されている。(※ 静岡県HPで電子データで提供中)

東白塚の草原で記録された草花と蝶



コウリンカと
スズグロシロチョウの仲間



タイアザミと
ギンボシヒョウモン



ヒヨドリバナと
サカハチチョウ



キオンと
オオウラギンスジヒョウモン



キオンと
アサギマダラ

1996年9月 台風被害で遊歩道が寸断

台風17号による風倒木により遊歩道は寸断されて通行困難となった。営林署は広域に及んだ国有林の風倒被害への対応とその後の営林署の再編などにより東白塚周遊コースの修復は行われぬまま遊歩道にスズタケが覆い被さり、ハイキングコースとして利用することはできなくなった。

2005年9月 遊歩道整備の提案

現当会事務局長勝又の提案(※)で、遊歩道を整備することを静岡森林管理署に申し出たところ、森林体験として実施する案が示されたが、その後、国有林の管理責任問題が浮上したため実現しないまま現在に至る。(※ NPO法人富士山クラブの富士山南面森林保全プロジェクトの前身組織として)

風倒被害から10年後の遊歩道 (整備のための現地確認・2006年)



2014年6月 旧東白塚周遊コースの自然環境調査 (植物・野鳥)

環境教育のフィールドとして遊歩道の再開を模索するための予備調査を実施した結果、草原はニホンジカの食圧により希少種が消滅するなど、植物の著しい衰退が見られることを確認、調査レポートを静岡森林管理署に提出し、保護が必要であることを訴えた。〈調査レポート「東白塚調査(予備調査) 2014年6月14日」参照：ホームページに掲載〉

2014年7月 植生保護柵の必要性を確認

ニホンジカについての情報交換 (当会横山理事長、勝又事務局長、常葉大学山田教授、静岡森林管理署枝澤署長) で、草原に植生保護柵を設置する必要があることを確認した。

2014年11月 静岡森林管理署の現地調査・植生保護柵設置のための計測

静岡森林管理署・常葉大学環境防災研究所・動物学者今泉忠明氏（動物調査のためのセンサーカメラ設置指導）とともに現地調査を行い、植生保護柵設置場所の検討と計測などを実施した。

2014年12月 センサーカメラによる動物調査開始

動物学者今泉忠明氏の指導で草原および旧水ヶ塚遊歩道周辺区域4箇所でセンサーカメラによる動物調査を開始した。草原では大量のニホンジカを記録(写真)。イワシモツケは花が見られなくなり、サンショウバラも枝先が食べられていた。豪雨時には草原のほぼ全域が水没することなどが確認された。現在(2016年9月)も3箇所で調査を継続中である。



ニホンジカの群れが連日記録された



低木の新芽を食べる雄ジカ

2015年10月 植生保護柵を設置

静岡森林管理署・常葉大学環境防災研究所および学生ボランティアと協働で大小2基の柵を設置した。

(イワシモツケ保護柵は2013年に旧須山口周辺に4基の柵を設置した際の余剰資材を活用した)



枝先が食べられ枯死寸前のイワシモツケを保護

草原と植生保護柵全景（左側がイワシモツケの保護柵）

2015年11月 富士山国有林見学会で植生保護柵を見学



水ヶ塚駐車場から現地に出発



旧東白塚周遊コースで森を観察



植生保護柵を見学して草原で昼食

静岡森林管理署主催富士山国有林見学会が水ヶ塚遊歩道～旧東白塚周遊コースで実施され、参加者が植生保護柵を見学した。現地説明には当会が記録したかつての草原の写真などを提供。ルート上では調査中の動植物写真などを用いて参加者に森林の解説を行った。

② 柵の点検と効果の検証

植生保護柵の点検と補修

2015年11月、2016年4月に柵の点検とステープワイヤーの補修を行った。地面が柔らかいためペグが抜け易く、支線の緩みや外れ、杭の破損などがみられた。このような環境では杭を支柱で補強する設置のほうがよいと思われる。



2016年7月 植生保護柵の点検と補修

折れた杭に短い杭で添え木し支柱で補修した。柵内はイネ科植物、アザミ、キオンなどが成長し、イワシモツケの新芽と花が見られるなど、著しい効果が表れていた。



杭の補修

柵内の草原とサンショウバラ

花を付けたイワシモツケ

サンショウバラの白花

2016年8月 植生調査

8月8日、主柵内に3箇所、柵外の1箇所に2×2mのコドラートを設け、植生調査を実施した。

調査は元静岡県環境調査委員会植物部会会員佐藤孝敏氏による。





コドラート①		コドラート②		コドラート③		コドラート④ (柵外)		
被度 100%		被度 100%		被度 100%		被度 95%		
土壌水分量 8.0% 地表温 26°		土壌水分量 8.1% 地表温 26°		土壌水分量 8.5% 地表温 26°		土壌水分量 6.8% 地表温 30°		
草本	アシボソ	+	アシボソ	1	アシボソ	+	アカショウマ	+
	イケマ	r	クサイ	2	イネ科sp.		カタバミ	+
	カタバミ	+	コヌカグサsp.		キオン	2	キオン	+
	キクムグラ	+	コバギボウシ	r	キツネノボタン	+	キクムグラ	+
	キツネノボタン	r	コブナグサ	r	クサイ	1	クサイ	+
	キンレイカ	+	シロバナノヘビイチゴ	+	コケオトギリ	+	コケオトギリ	+
	クサイ	2	タイアザミ	+	コヌカグサsp.	4	コフウロ	+
	ゲンノショウコ	+	ニョイスミレ	+	コバギボウシ	r	コブナサ	+
	コオニユリ	+	ミノボロスゲ	2	コブナグサ	+	シロバナノヘビイチゴ	2
	シロバナノヘビイチゴ	2	ムラサキサギゴケ	r	シロバナノヘビイチゴ	r	スゲsp.	+
	タイアザミ	+	ヤマアワ	1	タイアザミ	2	タイアザミ	+
	ダイコンソウ	+			タニソバ	+	ダイコンソウ	+
	タチネズミガヤ	+			ニョイスミレ	r	タニソバ	+
	ナガエコナスビ	r			バライチゴ	r	ナガエコナスビ	+
	ニョイスミレ	r			フジイバラ	r	ニョイスミレ	+
	ヌカボシソウ	+			ヘビノネゴザ	r	ヌカボ	3
	バライチゴ	+			ミヤマタニタデ	r	ハシボソ	+
	フジイバラ	2			ムラサキサギゴケ	+	ヘビノネゴザ	+
	ヘビノネゴザ	+			ヤマオダマキ	r	ムラサキサギゴケ	+
	ミノボロスゲ	1					ヤマカモジグサ	+
ムラサキサギゴケ	+					ヤマスズメノヒエ	+	
ヤマカモジグサ	+							
ヤマスズメノヒエ	r							
木本	サンショウバラ	r	フジイバラ	r	ニシキウツギ	r	ニシキウツギ	+
	ニシキウツギ	+			ミヤマイボタ	r		
	フジイバラ	2						
	ミヤマイボタ	+						
備考		備考		備考		備考	ニホンジカによる食圧のため草丈が極端に短い 土壌水分は4箇所ノ平均値	

特定非営利活動法人富士山の森を守るホシガラスの会
〒412-0006 静岡県御殿場市中畑1691-14
TEL 0550-89-6905 FAX0550-73-0434
ホームページ <http://hosigarasu.org>
Eメール info@hosigarasu.org